

令和3年度

校内研究



令和3年度 研究主題

主体的に学習に取り組む児童の育成 ～ICT機器を活用した授業づくりを通して～

めざす児童像		
低学年	中学年	高学年
学んだことを活かして、最後まであきらめずに課題を解決しようとする子	自分の課題に気づき、解決に向けた解決方法に気付ける子	課題に向き合って学習し、次の学びにつなげようとする子

研究仮説

「主体的に学習に取り組む児童の姿」を具体的に設定し、その姿を引き出すためのICTの活用を行い、評価を指導にいかす工夫を行うことで、主体的に学習に取り組む児童を育成することができるであろう。

主体的な学びの過程と主体的に学ぶ児童の姿



ICT機器の活用

主体的に学ぶ児童の姿の実現

・上記5つの学びの過程の中で、一つに重点を置き、ICTを活用してその姿の実現を目指す。

指導と評価の一体化

指導事項をおさえた系統的な学び

・ICTの活用においても、しっかり指導事項をおさえ、児童の意欲・自信につながる学びを目指す。

研究の方法

(1) P D C A サイクルを取り入れた研究授業

研究分科会(P) ⇒ 研究授業(D) ⇒ 研究協議会(C) ⇒ 通常授業(A)

- ・ 4つの分科会
- ・ 手立ての話し合い
- ・ 事前授業
- ・ 分科会提案
- ・ 授業参観の視点

- ・ 主題にせまるための手立て、ICT活用の授業提案

- ・ グループに分かれる
- ・ 付箋を活用
- ・ 視点をもとに成果と課題、改善策の討議
- ・ 全体発表

- ・ 研究協議会で出された意見や講師の先生からの指導を、次の授業に生かしていく

(2) 全教員によるICTを活用した授業

- ① 今年度、全教員が提案授業を行い、講師による指導を受ける。
- ② 授業者はあらかじめ、略案を作成する。(授業の前に出す研推だよりで知らせる。)
- ③ 研究協議会で、活用したICT教材や児童の反応について簡単に情報共有する。
- ④ 明日の授業に生かしていく。

(3) ICT 活用に関わる研修

年間を通して研修会を行い、教員が高め合う場を設定する。

- ① ICT 活用に関わる研修会の設定
- ② ICT を活用した実践の交流 (Tabatime) 常時活動

